

目 次

研究概要		1
公開研究会記録		8
国際研究会「東アジアの目録規則」記録		39
図書館目録をめぐる動向:2007～2012	渡邊 隆弘	106
<研究成果再録>		
●論文		
RDA 改訂に見る FRBR の具体化:新時代の目録規則を考える		
『図書館界』62(2), p.182-192, 2010.7.	松井 純子	130
典拠コントロールの現状と将来		
『情報の科学と技術』60(9), 2010.9. p.371-377.	渡邊 隆弘	141
Digital Cultural Heritage における分類と新しい情報知識		
体系の可能性 『現代の図書館』48(4), 2010.12, p.245-252.	研谷 紀夫	148
「国際目録原則覚書」策定過程の諸論点:草案の変遷から		
『資料組織化研究-e』59, p.1-12, 2010.12.	渡邊 隆弘	156
新しい目録規則(RDA)から得られるもの:機械可読性の		
視点から『図書館界』63(2), 2011.7, p.114-121.	渡邊 隆弘	168
「決定を RDA 刊行後に持ち越した課題」から見る RDA の		
方向性 (1) 「転記の原則」をめぐる『資料組織化研究-e』61, 2011.10. p.10-30.	和中 幹雄	176
典拠コントロールとオントロジー:豊かな情報アクセスのための		
基盤『情報の科学と技術』61(11), 2011.11. p.434-440.	渡邊 隆弘	197
書誌コントロールの戦後体制に関する覚書		
『資料組織化研究-e』62, 2012.4. p.11-23.	和中 幹雄	204

書誌コントロールの新たなフレームワークに向けた課題整理 『図書館界』64(2), 2012.7. p.122-132.	和中 幹雄	217
RDA をめぐる最新状況と目録法の課題整理 『TP&D フォーラムシリーズ』21, 2012.8. p.11-23.	和中 幹雄	228
「決定を RDA 刊行後に持ち越した課題」から見る RDA の 方向性(2) RDA 本格導入直前の改訂作業について (その 1) 『資料組織化研究-e』63, 2013.2. p.11-31.	和中 幹雄	241
●口頭発表		
MLA 連携について：情報組織化をも意識して 情報組織化研究グループ 2011 年 5 月例研究会, 2011.5.14.	田窪 直規	262
アーカイブズの電子情報化とその課題 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第 38 回全国 (広島)大会, 2012.11.8	研谷 紀夫	270
ISBD 統合版の研究：改訂内容の検討とその意義 第 54 回日本図書館研究会研究大会, 2013.3.3.	松井 純子	276